

東京2020大会都立競技施設におけるアクセシビリティ・ワークショップについて

「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」

【概要】

- 東京2020大会が、障害の有無に関わらず、全ての人にとって参加しやすい大会となるよう、ハード・ソフト両面でのバリアフリー化の推進に向け、組織委員会が策定する大会用ガイドライン。仮設も含めた整備が対象。
- 構造物の設計に関わる項目について先行的にアクセシビリティ協議会で取りまとめ。平成28年1月にIPCの承認を得て、先般、組織委員会から公表
- ソフト面の基準等についても、現在策定を進めており、本年春に協議会での取りまとめを行い、その後、IPCに承認を申請し、平成28年度中に最終承認を得る予定

「アクセシビリティ・ワークショップ」

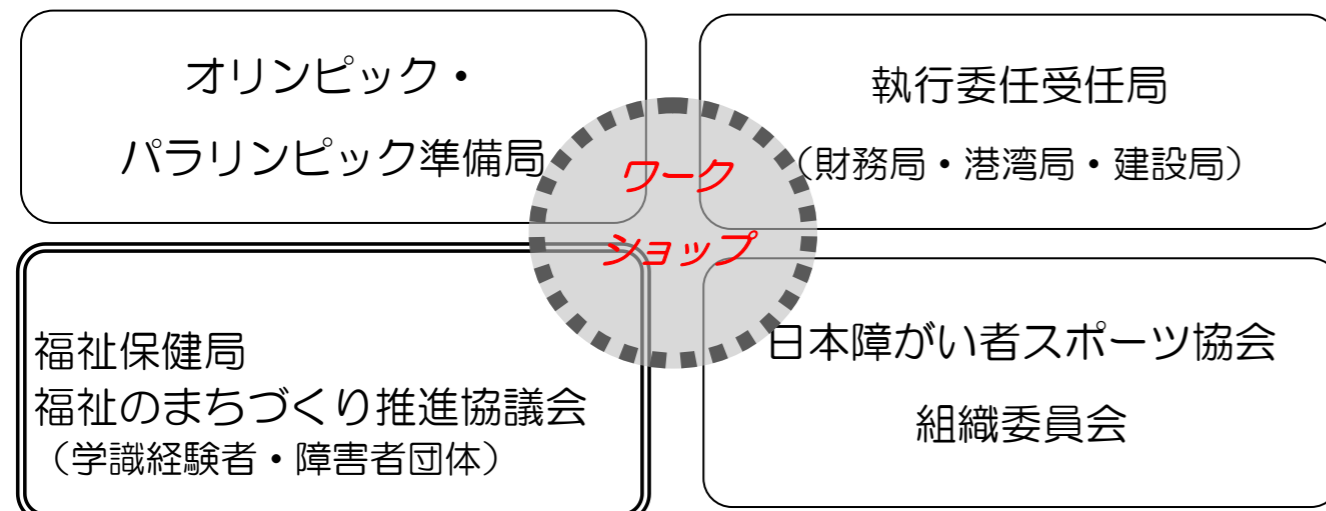
【概要】

- 都が整備する恒久施設は、大会後も都民の財産となることから、後利用を見据えた整備が必要であり、アクセシビリティの確保に向けて、より具体的な意見を聴取
- 都立競技施設の設計段階で、「東京都福祉のまちづくり推進協議会」の学識経験者及び障害者団体や日本障がい者スポーツ協会も参画

ワークショップの進め方

【体制】

- 計15名程度で、施設ごとのアクセシビリティに関する実務的な内容について検討を行う。



- 各施設2～3回の開催を予定
- 基本設計後、実施設計前に第1回を開催し、委員から意見聴取（時間が足りない場合は、メールでも意見聴取）
- 意見を踏まえて実施設計を行い、反映の状況等について第2回で報告
- 委員からの要望や現場状況を踏まえて、第3回、現場確認を必要に応じて実施

